

- 開催日時 平成30年8月9日(木)10:00～13:00
- 開催場所 国民會館 12階大ホール
- 出席委員 梶原委員、蔵治委員、武田委員、藤田委員、増田委員 以上5名(五十音順)

■議事要旨

平成29年度の森林環境整備事業実績にかかる評価および平成30年度事業計画について

共通

- 町名や地点名で読みづらい名称についてはふりがなを記載すること。
⇒了解
- 図の表記方法が事業によってバラつきがあるのでできるだけ統一すること。
⇒了解

危険溪流の流木対策事業

- 不調で実施できなかったことに対して、今後の対策はどう考えているのか。
⇒入札不調の主な原因は新名神事業を始め多くの工事が発注していることもあり、本事業の入札に影響しているため、できるだけ早期に発注していく。
- 大阪府内の森林では地籍が特定できない箇所が多く、進捗が困難であることに対してどう考えているのか。
⇒平成31年度からは新しい森林管理法により、市町村の協力も得て、森林所有者の特定に努めていく。
- 第三者評価としては、適切に評価している。地籍混乱地については基礎自治体と連携して適切に対処してほしい。
⇒了解

主要道路沿いにおける倒木対策事業

- 危険溪流の事業では地籍混乱という要因だったが当該事業では地権者との協議に時間を要したとなっているが違いは何か。
⇒当該事業は道路沿いの箇所であるため、地籍が比較的明確となっている。
- 主要道路沿いにおける倒木対策事業の項目に荒廃森林倒木対策事業という表題となっているが、統一をした方がいいのではないか。マツ枯れ対策も実施しており、実態は荒廃森林だと思うが、記載方法について確認してほしい。
⇒確認して記載方法を工夫する。
- 第三者評価については、妥当である。

持続的な森づくり推進事業（基盤づくり）

- P57の自己評価の理由欄に「平成31年度中には工事を完了することとする」と書いてあるが、今後、災害が起きる可能性もあるので、そこまで断言しないほうがいいのでは。
⇒記載方法について工夫する。
- 第三者評価としては、適切に評価している。自然災害等に対応して、適切に全体計画を見直す必要がある。

持続的な森づくり推進事業（人材育成）

- その後、林業架線作業主任者免許試験を受験したのか、合格したのか等のフォローアップしたのか教えてほしい。
⇒試験は今年度予定。
- 17名が3年間の継続事業というのであれば、そのようにわかるように表記すること。
⇒記載方法について工夫する。
- 12名の計画のところ、17名の実績というのはどういうことか。大阪府の経営計画との関係で人数が決まっているのか。
⇒基盤づくりの事業地に合わせて、実際に現場の監督をしている人数で計画を12名と算出した。参加する林業事業体と調整していく中で、12名のほかに将来育てていく若手がいるということが判明したので追加で5名が参加することとなった。
- 第三者評価としては、適切に評価している。17名に増加していることに関しては、若手育成等現場ニーズに対応しており、適切と考える。

持続的な森づくり推進事業（未利用木質資源(林地残材等)活用)

- 事業計画ではH29年度だけが金額が大きいがどういうことか。
⇒H29年度に日本森林ボランティア協会と契約しており、搬出活動に必要な機械の購入費がH29年度の事業費の大部分を占めている。
- 機械は大阪府が買って貸与しているので、大阪府が所有するというのか。事業が完了すれば購入した機械はどうするのか。
⇒大阪府の所有物である。事業完了後は無償貸与することで考えている。
- P64は事業計画を記載するページであるにもかかわらず、H29年度契約した受託者名が記載されているので、他の事業同様H28年度時点の計画を記載すること。また、金額だけの計画ではなく、中核団体数の育成や搬出延べ人数等の計画も記載すること。
⇒了解
- H29年度計画額と契約額がいずれも18,071千円と全く同じであるがどういうことか。混乱を招くので再整理すること。
⇒再整理する。
- 当該事業については、この資料のままでは評価し難いので、一度データを再整理の上、持ち回り審議で取扱うこととする。
⇒了解

子育て施設木のぬくもり推進事業

- 事業実績の内容の表示方法がバラついているので統一すること。
⇒了解
- 2次募集の募集期間が終了しているのであれば、終了日を記載すること。
⇒了解
- 子育て施設であれば事業所リストがあるはずなので、市町村、幼稚園協会、保育園協会等の団体と連携を取ってPRすればどうか。
⇒協会とは既に連携を取っており、募集案内も送っている。市町村の説明会においても直接PRをしている。
- 第三者評価としては、「概ね妥当」ということで適切に評価している。さらなるPRについて、協会や市町村との連携をより深めてほしい。

森林環境整備事業効果にかかる中間評価について

危険溪流の流木対策事業

- OP4の棒グラフはタイトルとして、「対照区における台風前後の流木の移動、消失状況」と明確に書くこと。説明かないのでわかりづらいので少し説明を入れること。
⇒了解。
- OP6の記載内容ではわかりづらい。8箇所ある地点の中で5番は評価できるが、ほかの7箇所については評価しがたいという事がわかるように記載すること。
⇒了解。
- OP7については伐採作業の攪乱によって流出量が増えているかもしれないと思うが、その要因について何かわかるのか。伐採後どのくらい経過した段階での実験結果か明確にすること。
⇒理解しがたいところ。引続き、調査し検証する。実験時期について明確にする。
- 青崩の町名が間違っている。
⇒修正する。
- 第三者評価としては、事業実績については概ね計画通り進捗しているので妥当である。事業効果については掲げた項目ごとに理由を書いた上で妥当であるとする。

主要道路沿いにおける倒木対策事業

- 具体的な数値データを整理して、客観的に見えるようにした上で、自己評価をするという形にすること。
⇒了解。
- 自己評価での記載で、「竹林では、皆伐後に広葉樹を植栽することにより樹種転換を図り、通行障害の発生を抑制した」とあるが、これまで触れていない事項であるので、削除すること。
⇒了解。
- 第三者評価としては、事業実績については概ね計画どおり進捗しているので妥当との判断は適切である。事業効果については通行障害の発生抑制等について効果が確認できたことから妥当である。

持続的な森づくり推進事業（基盤づくり）

- 期待する効果と検証方法の対応関係がわかるようにすること。
⇒了解。
- 検証結果は別のページに記載すること。
⇒了解。
- 第三者評価としては、事業実績については自然災害の影響によって目標を下回っているものの全体計画の見直しを今後行うことを前提に概ね妥当である。事業効果については事業実績が6割程度にとどまっているにもかかわらず間伐実績量・搬出量ともに8割の数値を出しており、協定締結についても効果が確認できる。

持続的な森づくり推進事業（人材育成）

- 府として、意見交換会を通して府内産材の利用促進について何らかの手立てを考えているのか。
⇒具体案としては示せない。今後、継続実施している意見交換会の中で検討していく。
- 意見交換会はどのくらいの頻度で実施するのか。
⇒最低1回は実施する。
- 府として、もう少し踏み込んで実施する時期に来ているのではないか。

⇒川上と川下を連携させることが重要であるが川上と川下の距離をもう少し縮める必要があるのもう少し時間が必要である。コーディネーターにもなっただいている梶原先生に相談しながら検討していきたい。

○今回の中間評価では平成29年度の受講生は対象外であることを明確にすること。

⇒了解

○アンケートとして具体的にどんな質問をしたのか、どれくらいの人数がどんな回答をしたのか客観的データを記載すること。

⇒了解

○第三者評価としては、事業実績についてはコーディネーター、経営リーダーともに計画を上回っているのが妥当である。事業効果についてはコーディネーターに対しては効果が確認できたが、経営リーダーについては受講途中であるため効果は確認できないため、概ね妥当である。

持続的な森づくり推進事業（未利用木質資源(林地残材等)活用)

○事業年度評価と同じく、持ち回り審議とする。

○持ち回り審議の中では、事業全体をもう1度確認を行う。

子育て施設木のぬくもり推進事業

○今回のアンケート実施において、相手を特定しない手法は、適切でないことから、次回以降の実施については留意すること。

⇒了解

○自己評価には、アンケート結果より、9割近くの方が木質化に対して基本的には賛同していることを明記すること。

⇒了解

○第三者評価としては、事業実績に関しましては計画量に対して実績量がおおむね達成しており妥当と判断できるが、平成29年度の事業所数が平成28年度の事業所数より低下していることからおおむね妥当である。

平成29年度 大阪府森林環境整備事業 評価シート

担当課名	みどり推進室森づくり課
担当グループ名	森林支援グループ
連絡先	(06)6210-9556

1 事業概要

①概要等	事業実施年度	平成29年度
	評価年月日	平成30年7月9日
	施策区分	健全な森林を次世代へつなぐ取組み
	事業名	持続的な森づくり推進事業(未利用木質資源(林地残材等)活用)
	事業概要	搬出体制の構築に向けた事務局の設置・活動状況を周知
②事業の目的	事業開始年度	平成28年度
	人工林や里山林で伐採後放置された林地残材(未利用材)の有効活用により森林の健全化を図るため、林業事業者や森林所有者、地域で活動する里山保全活動団体等が林地残材を自ら断続的・安定的に搬出するために必要な仕組みを構築する。	

(単位:千円)

③事業費	年度別推移	H28	H29	H30	H31~	合計
	当初計画(千円)	2,851	18,071	2,400	1,400	24,722
	現計画(千円)	2,255	18,071	2,400	1,996	24,722
	執行額(千円)	2,255	15,009	-	-	-
④事業の内容	本事業は平成29年度に見直しを行い、林業事業者や森林所有者、地域で活動する里山保全活動団体等に対する林地残材搬出用機械等の貸与や搬出された材を活用する木質バイオマス利用事業者等とのマッチングを行い、林地残材を継続的・安定的に搬出する仕組みづくりの一環として平成29年度~平成31年度の3ヶ年に亘り本事業を担う事業者を選定し、運営を委託するものとした。					

2 自己評価

(1) 事業実績

⑤実績検証の内容	指標・検証方法		計画	実績	評価区分	理由
	指標	活動中核団体数	2団体	5団体	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 概ね妥当である <input type="checkbox"/> あまり妥当でない <input type="checkbox"/> 妥当でない	3ヶ年事業の1年目にあたる平成29年度の事業実績については、搬出活動を担う中核団体が計画では2団体に対して、実績では5団体と大きく計画を上回った。一方、搬出活動参加延べ人数は計画数を若干下回ったものの、中核団体5団体の会員数が385人であり、今後の活動に大きく期待できることを確認した。
検証方法	実績の確認					
指標	搬出活動参加延べ人数	100人	75人			
検証方法	実績の確認					

(2) 事業効果

⑥効果検証の内容	指標・検証方法		計画	実績	評価区分	理由
	指標	関係者の理解度の向上				<input type="checkbox"/> 平成30年度中間評価は別資料に記載 <input type="checkbox"/> 平成32年度に最終評価予定
検証方法	森林所有者、活動参加者への意識調査					
指標	搬出活動参加延べ人数(300人)					
検証方法	実績の確認					
指標	活動中核団体数(6団体)					
検証方法	実績の確認					

(3) 自己評価(総合)

⑦自己評価	総合評価	理由
	<input type="checkbox"/> 評価できる <input type="checkbox"/> 概ね評価できる <input type="checkbox"/> あまり評価できない <input type="checkbox"/> 評価できない	<input type="checkbox"/> 平成30年度中間評価は別資料に記載 <input type="checkbox"/> 平成32年度に最終評価予定

3 第三者評価

⑧第三者評価	大阪府森林環境整備事業評価審議会の意見	
	事業実績は、妥当である	

大阪府森林環境整備事業 評価シート（中間評価）

担当課名	みどり推進室森づくり課
担当グループ名	森林支援グループ
連絡先	(06)6210-9556

1 事業概要

①概要等	事業実施年度	平成28～29年度
	評価年月日	平成30年7月9日
	施策区分	健全な森林を次世代へつなぐ取組み
	事業名	持続的な森づくり推進事業(未利用木質資源(林地残材等)活用)
	事業概要	搬出体制の構築に向けた事務局の設置・活動状況を周知
②事業の目的	事業開始年度	平成28年度
	人工林や里山林で伐採後放置された林地残材(未利用材)の有効活用により森林の健全化を図るため、林業事業者や森林所有者、地域で活動する里山保全活動団体等が林地残材を自ら断続的・安定的に搬出するために必要な仕組みを構築する。	

(単位:千円)

③事業費	年度別推移	H28	H29	H30	H31～	合計
	当初計画(千円)	2,851	18,071	2,400	1,400	24,722
	現計画(千円)	2,255	18,071	2,400	1,996	24,722
	執行額(千円)	2,255	15,009	—	—	—
④事業の内容	本事業は平成29年度に見直しを行い、林業事業者や森林所有者、地域で活動する里山保全活動団体等に対する林地残材搬出用機械等の貸与や搬出された材を活用する木質バイオマス利用事業者等とのマッチングを行い、林地残材を断続的・安定的に搬出する仕組みづくりの一環として平成29年度～平成31年度の3ヶ年に亘り本事業を担う事業者を選定し、運営を委託するものとした。					

2 自己評価

(1) 事業実績(H28+H29)

⑤実績検証の内容	指標・検証方法		計画	実績	評価区分	理由
	H28年度	指標	搬出材積	100m ³	107m ³	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 概ね妥当である <input type="checkbox"/> あまり妥当でない <input type="checkbox"/> 妥当でない
検証方法		実績の確認				
指標		活動状況を周知	5回	3回		
検証方法		地域協議会等の場				
H29年度	指標	活動中核団体数	2団体	5団体	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 概ね妥当である <input type="checkbox"/> あまり妥当でない <input type="checkbox"/> 妥当でない	見直し以前の平成28年度は、複数の搬出方法の検討と林地残材需要先への持込みまでの実証とし、搬出材積については搬出計画量を達成できた。一方、活動状況の周知については、実証段階であったため、周知は計画5回に対し3回に留まった 平成29年度は、検証のための指標の見直しを行った。事業実績については、搬出活動を担う中核団体が計画では2団体に対して事業実績では5団体と大きく計画を上回った。一方、搬出活動参加延べ人数は100人という計画数を実績では75人と若干下回ったものの、中核団体5団体の会員数が385人であり、今後の活動に大きく期待できることを確認した。
	検証方法	実績の確認				
	指標	搬出活動参加延べ人数	100人	75人		
	検証方法	実績の確認				

(2) 事業効果(中間評価)

※⑥効果検証の内容	指標・検証方法		評価区分	理由
	指標	関係者の理解度の向上	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 概ね妥当である <input type="checkbox"/> あまり妥当でない <input type="checkbox"/> 妥当でない	以下の理由により、事業実施の効果を確認することができた。 搬出活動を担う中核団体数については、最終計画数である6団体に対し5団体が確保できた。一方、搬出活動参加延べ人数については、最終計画数300人に対し、75人の確保に止まったが、5団体の会員数が385人であることから、今後の活動に大きく期待できることを確認した。 さらに聞き取り調査により、森林所有者と木質バイオマス発電事業者については、未利用材の断続的・安定的な活用の実現のために必要な理解を得ていることが確認できた。中核団体の搬出活動への参画については、理解を得ているものの、搬出活動の拡大については、課題もあり一定時間をかけて取り組んでいく必要があることを確認した。
検証方法	森林所有者、活動参加者への意識調査			
指標	搬出活動参加延べ人数(300人)			
検証方法	実績の確認			
指標	活動中核団体数(6団体)			
検証方法	実績の確認			

※平成29年度に見直しを行った指標に対する効果検証

(3) 自己評価(総合・中間評価)

⑦自己評価	総合評価	理由
	<input checked="" type="checkbox"/> 評価できる <input type="checkbox"/> 概ね評価できる <input type="checkbox"/> あまり評価できない <input type="checkbox"/> 評価できない	事業実績については、妥当である。(平成29年度に見直しを行った指標に基づく評価として妥当) 事業効果については、妥当である。提案公募方式によって本事業を担う事務局を選定し、現在、事務局が集めた搬出活動を担う中核団体の参画を得て、未利用材の活用の仕組みを構築しつつあることが確認できた。

3 第三者評価

⑧第三者評価	大阪府森林環境整備事業評価審議会の意見
	○事業実績については妥当である。 ・平成29年度から事業を見直した結果、林地残材を断続的・安定的に搬出する仕組みづくりの一環として平成29年度～平成31年度の3ヶ年に亘り本事業を担う事業者を適切に選定することができたことから妥当と判断した。 ○事業効果については以下の理由により妥当である。 ・搬出活動参加延べ人数は計画数を下回ったものの、搬出活動を担う中核団体数は計画数を大きく上回っており、今後の活動も大きく期待できること、さらに、聞き取り調査により、森林所有者と木質バイオマス発電事業者については、未利用材の断続的・安定的な活用の実現のために必要な理解を得ていることが確認できた。